

日本道德教育学会神奈川支部 第28回学習会(オンライン)

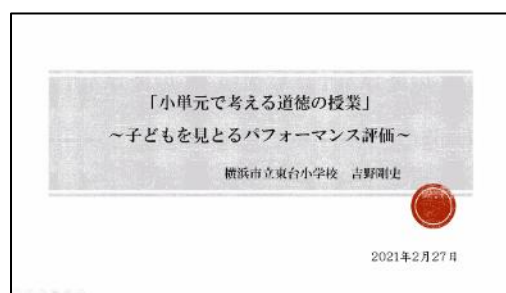
2月27日(土)15:00～

今回も多くの先生方に参加していただき、学び多き学習会となりました。

ありがとうございました。今回は小学校で学級担任をされながら日々研究をされているお二人の先生の実践を紹介します。

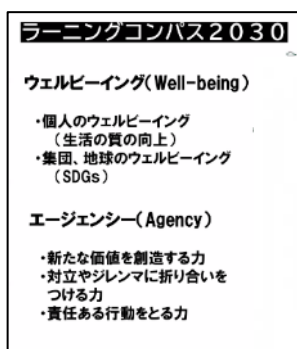
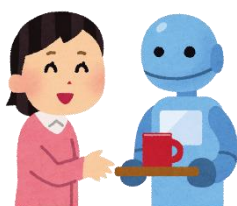
提案① 吉野剛史先生(横浜市立東台小学校教諭)

「小単元で考える道德の授業～子どもを見とるパフォーマンス評価～」



○現代における道德科の必要性

- ・ Society5.0 が現実的になりつつある、現代の社会で AI（人工知能）と人間の生活は切り離せないものとなっていく。
- ・ しかし「人間が人間らしく生きること」「自分の生き方」を決めるのは人間自身である。
- ・ OECD の「ラーニングコンパス2030」より今後の社会を考えていくうえでキーワードとなるのは「ウェルビーイング」(すべての幸福)と「エージェンシー」(変化を起こすために自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する力)ではないか。



○小単元による構成の経緯


- ・コロナ禍で授業時数の確保も難しい一年であったが、大・中単元ではなく小単元で学習を構成することで質的に学習内容を深めることができると考えた。

時数	学習課題	教材名・内容項目	本時目標
第1時	差別や偏見をのりこえるために必要な考えは何だろう？	補助教材 「星はやさしく光っていた (ある中学校教諭の手記より)」 (西尾市教育委員会：石川雅春作)	新型コロナウイルスに関わる医療従事者や、そこを取り巻く人達の思いや考えを話し合う活動を通して、差別や偏見に対する考えを深め、公正、公平に接しようとする心情を養う。
		内容項目 公正、公平、社会正義	
第2時		東京書籍 「田中正造」	前時の学習を生かしながら、差別や偏見に臆したり、自分の損得にとらわれたりすることなく、社会正義の実現に努めようとする実践意欲と態度を養う。
	内容項目 公正、公平、社会正義		

○小川太郎氏の言葉より

教科書を教える。教科書で教える。教科書でも教える。

小川太郎『教育と陶冶の理論』明治図書 1970



教科書外教材 を活用して小単元をつくる



地域の自作教材を検索してみるのも面白いかもしれません◎
© 小川太郎 編集主任・学校長 教科書委員会への報告も忘れずに！

- ・授業の中で絵本、心のノート、私たちの道徳、自作教材…など様々な補助教材を扱っていくことで、子どもたちの道徳性をはぐくんでいけると考える。

○現代的な課題を扱った授業（第1時）

コロナ禍における医療従事者への差別という現代的な課題を扱った。

教科書外教材 を活用して小単元をつくる

星はやさしく光っていた（ある中学校教諭の手記より）

小学6年生のお子さんをお持ちのお母さんが、声をつまらせながら私に電話をしてみました。そのお母さんは私をよく知っている人で、大きな病院に勤めてみえるかたです。その日もくたくたになりながら、防護服を脱ぎ、フェイスシールドを外して、病棟を離れたときには、星空がともきれいだっただろうです。星々のやさしい光を感じながら、今日一日精いっぱい患者さんのために責任を果たしたという誇りを感じたという事です。それなのに家に着くと、ぐっだりとした表情で娘さんが涙を流していたそうです。小学校に通う娘さんは、学校の再開をとっても喜んでいました。「友達と会える」と、うれしそうに登校する姿をお母さんは見送りました。教室で娘さんたちが先生にたのまれて配布物を配っていた、その様です。「あっ、さわっている」という声が聞こえてきました。最初はコロナウイルスに感染しないために、他人のものはさわらないで、という意味かと思ったそうです。しかし、休み時間に手を洗っているし、他にも先生にたのまれて配っている子がいるのに、なぜ、私にだけ、とすこし不安になったそうです。やがてその意味が分かりました。後ろのほうから小さい声で、「ばいさんがうつる」「ニュースになった感染症の人がいる病院にお母さんが勤めているらしいよ」という声が聞こえてきたのです。「なんで」「どうしてばいさんよばわりされないといけないの」「お母さんは命をかけてお死んでいるのに……」、娘さんは腫の奥底から怒りがわいてきたといいます。それでも何も言えずに、帰ってきたというのです。お母さんはその話を聞いたとき、自分の顔が青ざめていくのを感じたそうです。

「娘さんになんと声をかけられたのですか」電話口ではお母さんにたずねました。「今日、帰ってくるとき、夜空の星がともきれいだっただよ」「お母さんはこうして家に帰っているけれど、重症患者さんと長い時間いっしょにいる医療関係者の中には、家族にうつすのが心配で、ずっと帰らずにいる人もいるんだよ」「……星はやさしく光ってくれていた……感染している人もしていない人も、私もあなたも周りの友達も、みんな娘様の一員なのにね……」。それ以上のことは何も言えず、しばらくは声も出ないような状態だったそうです。私は電話口を飛び出して、その二人のそばに駆け寄りたいたい気持ちになりました。



愛知県西尾市教育委員会
作：東部中学校 石川雅春 校長

風評被害対策のための教員自作による道徳教材の活用について(令和2年6月26日発表)

新型コロナウイルス感染症に対する風評被害をなくしたいという思いから、一色南部の学校の今年度校長と東部中学校の石川雅春校長が、道徳の自作教材を作成しました。

両校ともに、児童生徒の発達段階に応じて教材の考えを深めることができる内容となっており、各学校に配付または活用されています。

自作教材につきましては、下記のファイルにて閲覧することができますので、お探しいただければ幸いです。

教育委員会事務局 学校教育課

お問い合わせ先

- ・ 資料請求・人事・研修担当：0562-65-2174（直通）
- ・ 保健安全・生活指導・給食担当：0563-65-2175（直通）
- ・ 庶務担当：0563-65-2177（直通） FAX：0563-56-2727
- ・ Mail：gukko-kyokai@city.nishio.lg.jp

T:045-8501 愛知県西尾市市役所下田22番地 0563-96-2111（代表）

この組織がらびが：教育委員会事務局/学校教育課

このカテゴリー内の他のページ

- ・ 風評被害対策のための教員自作による道徳教材の活用について(令和2年6月26日発表)
- ・ 中学校等の対応(令和2年6月26日発表)



○教科書教材を扱った授業（第2次）

「田中章造」銅をとることで

国は豊かになる⇨一方で農家は差別を受ける。

鉱業⇨農業の対立する立場や、答えなき問題について考える教材



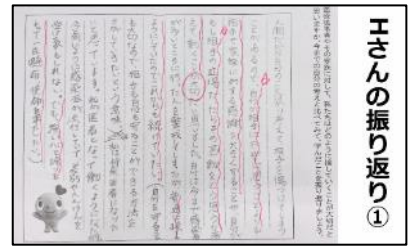
ワークシートの裏面に
前時の板書を印刷した。



前時の板書写真もワークシートの裏に印刷して振り返られるようにしている。

○子どもたちの振り返りから

- ・考えるだけでなく行動する大切さ
- ・自分事だけでなく、他の人の人権を守りたいという意識
- ・視点を変えて振り返る…など2時間の授業の中で多くの変容が見られた。



○パフォーマンスによる評価について

- ・書かれたこと、発表したことだけでなく
- 子どもの様子、うなずき、つぶやき、動き、目線の移動、方の入り具合…などから評価できるものがある。(子どもたちの動画を見ながら一つ一つ解説していただきました)

○ルーブリックによる評価

- ・上記のパフォーマンス評価だけでは主観的になる。そのためルーブリックによる評価を追加している。
- ・ただの到達度評価にならないように、教師自身の授業改善に生かすようにした。
- ・ワークシートを振り分け、判断力、心情、実践意欲に分類し評価した。

ルーブリック（評価指針）を活用する

	A	B	C	計
道徳的判断力	2	12	0	14
道徳的心情	1	11	2	14
道徳の実践意欲と態度	3	3	0	6

	A	B	C
道徳的判断力	道徳的な問題点をとらえ、よりよい集団社会を形成するために必要な見方や考え方を、自分の経験と比較したり関連付けたりして、道徳的判断力について考えている。	登場人物の道徳的行為の背景にある思いを類推しながら、道徳的判断力について考えている。	自己が中心となり、偏ったものの見方や考えで集団社会をないがしろにしている。
道徳的心情	よりよい集団社会の形成のために共感しながら教材をとらえ、不正な行為は行わず、また、許さないという気持ちになっている。	登場人物の心情を理解しながら共感して考えている。	差別や偏見はやむを得ず、自然や社会の理理であると捉えている。
道徳の実践意欲と態度	差別や偏見をなくすために必要な考えや意思を捉え、行動に移そうとする実践意欲と態度が身についている。	登場人物の行動に共感して、実践意欲や態度をもつよきを感じている。	差別や偏見をなくすためには、相手が変わらなければならないという他人事に終始している。

イメージ写真

時間	学習課題	教材名、内容要約	学習目標
第1時	差別や偏見をのりこえるために必要な考えは何かをたずねよう	補助教材「崖はやさしく笑っていた（ある中学校教員の日記より）」（高橋中教育委員会・石川 雅幸 著） 内容項目 公正、公平、社会正義	新型コロナウイルスに関わる国民意識調査。そこを境に多くの人達の思いや考えを話し合う活動を通して、差別や偏見に対する考えや、公正、公平、社会正義を育む。
	東京書籍「田中正造」		
第2時		内容項目 公正、公平、社会正義	群衆の学習を生かしながら、差別や偏見に勝ったり、自分の胸襟にゆだねたりすることなく、社会正義の実現にも「よつこ」の実践意欲と態度を育む。

○学校の取り組み「教科担任制」を生かす

- ・5クラス中3クラスの道徳授業を行っている。
- ・上記のループリックの結果をもとに授業改善を行う。
- ・3クラスとも同じ授業はできないが教師自身が「子どもの実態に合わせて変わろうとする姿勢」が大切である。
- ・子どもたちが学ぶ姿に注目し、今後も子どもたちが考える姿を見取るようにしていきたい。

ループリック（評価指針）を活用する

学習内容6は「…友達の理由を考える」→「友達の気持ちを考える」に発問を変えてみようと思った。実践意欲と態度を高めるためには、役割演技やロールプレイが有効だったかも？

指導を改善しようと思うと、**教師の態度**が変わる。
 発問をもっと、こうした方が良かったな…
 板書は、もっと子供の意見を繋げられるように、配置を変えよう…

同じ授業は、再現できない。だけど、もっともっと子供が「学ぶ」姿を見たい。

「子供に変われ」という前に、「**自分が変わろう**」

授業中、子供の視線を、肩の入り具合を、首をかしげる姿を…もっともっと見てみよう
 もしかしたら、もっと**子供の世界**に近づけるかもしれない。

ご清聴ありがとうございました

参考文献・引用文献

田沼茂紀 『小学校 道徳科授業スタンダード「資質・能力」を育む授業と評価実践の手引き』 東洋館出版 2019年
 田沼茂紀 『聞いて紡ぐ小学校道徳科授業づくり』 東洋館出版 2020年
 富岡栄 『道徳科 授業づくりと評価の20講義』 明治図書 2018年
 白井俊 『OECD Education 2030プロジェクトが描く教育の未来』 ミネルヴァ書房 2020年
 押谷由夫 『新しい道徳教育の理念と方法』 東洋館出版 1999年
 松下佳代 『パフォーマンス評価-子どもの思考と表現を評価する-』 日本標準 2007年
 鈴木敏恵 『AI時代の教育と評価』 教育出版 2017年
 小川太郎 『教育と陶冶の理論』 明治図書 1970年
 西岡加名恵 石井英真 『Q&Aでよく分かる！「見方・考え方」を育てるパフォーマンス評価』 明治図書 2018年
 大阪市立境野小学校研究紀要 『言語活動の充実をめざして～授業力向上をめざして～』 2012年

質疑応答

(参会者)

Q1

- ①ロールプレイについて、どのようなものが高学年にマッチするか？
- ②一部教科担任制を行っているが自分のクラスではないことで、感じること、気づくことは？

(提案者)

A1

- ①校内研究の特活の授業を通して、子どもたちがビデオ作りなどを行っている。高学年は役割演技やロールプレイを道徳の授業だけでなく、他の授業でも自然に取り入れていくとよいのではないかと。
- ②担任の学級経営が影響すると感じた。ハンドサインも、クラスによって機能する場合と、逆に混乱してしまう場合がある。

Q 2

- ・授業中は、子どもの動きをどのように注目しているか？視線や傾聴などどのような割合で授業を見ているか？見取った後のフィードバックはどうしているか？

A 2

- ・1時間でクラス35人を見ることはできないので、数人の児童に決めて注目している。
- ・授業の見取りの割合は、発言している子3割、その発言を聴く周りの子がどんな反応をしているかを7割くらいで見ている。黒板は書きながらも、子どもたちの反応に注目している。
- ・朝の会などで名前は言わず、「昨日の授業でこんな意見があったよ」と紹介する。
子どもたちのワークシートをまとめて掲載し、「いいね」と思ったものにチェックをしてもらうなど

Q 3

- ・低学年の子どものうなずき、つぶやきは機械的になってしまわないか？うなずいていることと書いていることにずれが生まれた時どうしているか？
- ・実践意欲、態度の見取りは非常に難しい。どのように見取っているか。

(感想)

ループリックでは本時の具体的な子どもの姿が見えると評価がしやすくなる。パフォーマンス評価、子どもの動きやつぶやきを見取るために、教師二人体制で子どもの様子を見てもらっている。毎時間は無理かもしれないが年間を通して数回見取することは可能である。

A 3

- ・低学年は言語化が難しい。しかし動きや、うなずきは素直なので、そこにきちんと注目して価値づけしていくことが大切である。動画などを見ながら、発表者の子だけでなく、周りの子の反応も見えていくことで評価につながる。
- ・子どもたちの言葉の語尾や接続詞に注目している。(〇〇だけれども、次〇〇したいなど)

参観者

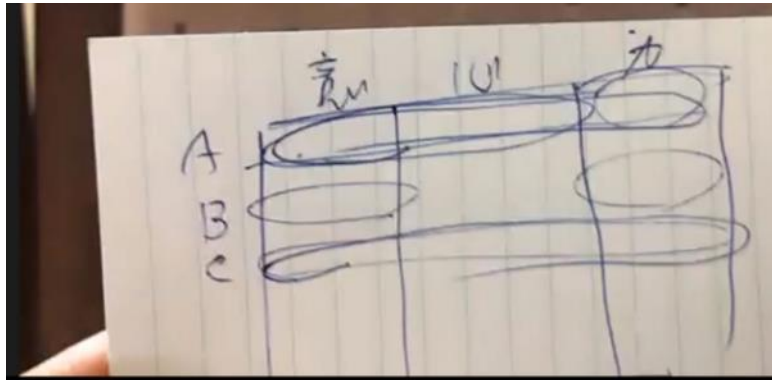
(感想)

- ・子どもの表情や動きだけで評価すると、多動性障害の児童や、表情を作りにくい児童などは正確な評価にならないこともある。やはり言語による評価も大切である。子どもの実態を理解した学級担任が子どもたちを年間を通して多面的に見ていくことが大切である。

参観者

(感想と提案)

- ・手のあげ方ややうなずき方など、子どもによってその意味が異なる。ルーブリックを作る際、子ども一人一人によって、意欲・心情・判断などの軽重が変わってくる。そのルーブリックを集計していくことでその子に足りない力や、指導すべきことなどの傾向が見えてくるのではないか。(写真図)



参会者

(感想)

- ・ルーブリックをどのように活用するかが大切。人数が多ければよいというわけではない。人数をどのように分析するかが大切である。
- ・教科担任は何度も発問を改善できる良さがあるが、担任ではないので、子どものバックボーンを理解しにくいという点があるのではないか？

参会者

(感想)

- ・横浜の道徳授業のスタイルとして、事前に今の自分の状態を見つめたうえで、そこから授業をスタートする。
- ・授業をしたことと子どもがどう変わったか、事前の調査と比較したうえでの評価ができそうである。

.....

提案②梅澤正輝先生（新宿区立戸塚第一小学校 教諭）

「子どもの問題意識を大切にした道徳科授業と評価」

○学校紹介

- ・ 来年創立145年の伝統
- ・ オリパラ選手よるゲストティーチャー
- ・ ホワイトボードと移動式プロジェクターなど

○なぜ「問い」に注目したか

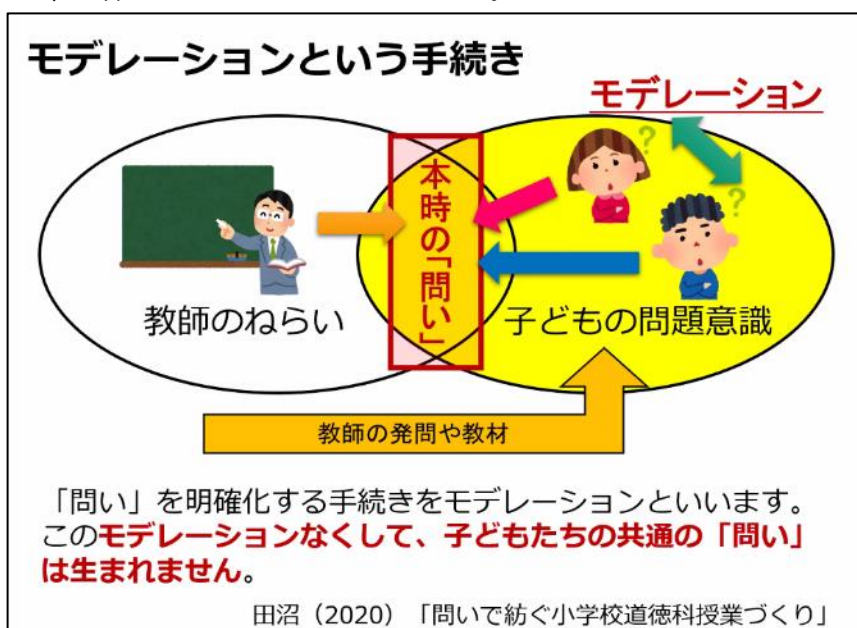
- ・ 心情理解やわかりきったことを言わせる道徳授業からの脱却
- ・ 問題意識が薄く、他人事のような、教師主導の授業では考え議論する道徳実現できない。
- ・ そのため共通の問を立てることで考え議論する道徳の実現につながると考えた。

○なぜ問題意識を大切にするのか？

- ・ 子どもの中に問題意識を生むことが自分事の学びにつながる。
- ・ 共通の問いをつくることで課題探求型の授業につながっていく。
- ・ 他者と語り合うことを通して、多様な道徳的な思考判断につながる。
- ・ 学習指導要領に書かれていることから、時代が共通の問いを求めているように感じる。

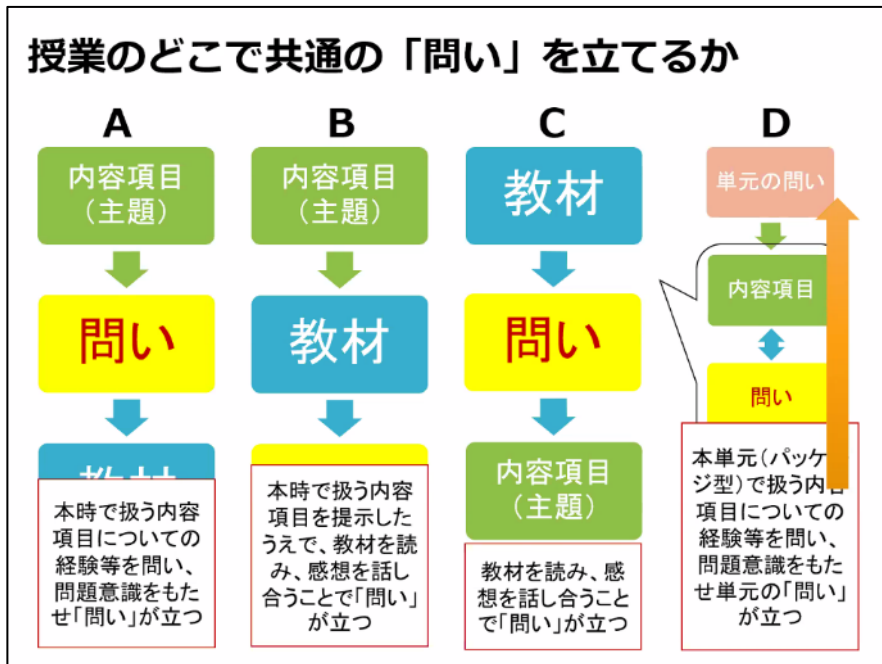
○どのように共通の問いをもたせるか？

- ・ 何もないところから「問い」が生まれるわけではない。教師のしかけによって、一人一人の子どもたちの中に引かかるものが生まれていく。



○45分の中で問いをつくるための工夫

- ・子どもたちの問いが立つ4つの想定場面は以下のように分類される。
- ・子どもたちの問いも大切にしながら授業をめていかなければいけない。
- ・子どもの問題意識に合わせて、子どもの思考にあった言葉で問いを作っていく。
- ・スムーズに進めていかないと作った問題を解決できずに終わってしまう。
- ・手立てとして「道徳読み」をしながら教材にするしをつけていく。
- ・内容項目について授業前に考えさせておいてから授業に入るという手立てもある。
- ・問いをもつことで子どもたちが振り返りをする上でも焦点化される。



○内容項目から問いを作る授業例

5年生「和太鼓調べ」～伝統を受けつぐよさ～

先生: 伝統を○○。○○には、どんな言葉を入れますか。

内容項目についての経験

- ・伝統を「広める」。
- ・伝統を「受けつぐ」。

先生: どんな風に、伝統と関わっていますか。

先生: 伝統は大切だと思いますか。なぜですか。

問題意識の醸成

先生: ガスティーチャーの授業や習い事。先生、伝統を大切にするんだろう？

【問い】 伝統を「受けつぐ」「広める」って何だろうか。

【問い】
伝統を「受けつぐ」「広める」って何だろうか。

伝統を受けつぐということは大事だと思いました。なぜなら、一人が発表することでみんなに伝わり、さらには伝統を作った人や職人さんも喜ぶ、そのようなことが繰り返されることで、伝統を受けつぐことができるからです。

ぼくは、授業の前までは伝統なんて受けついで意味がないと思っていたけれど、授業後は伝統を受けつぐことが、自分や未来のために大切なのだと分かりました。

教師の評価観点○	△
受けつぐ、広めるの視点 (28/33)	・知る→伝える、調べ学習 ・和太鼓のすごさ等 (5/33)

問いを立てることで振り返りの視点がぶれなくなる

○教材から問いを作る授業例(1)

6年生「ぼくだって」～相手を理解する心～

教材を読んで、いいと思ったところに「○」、よくないと思ったところに「△」、疑問に思ったところに「？」をつけましょう。

ぼくが最後ヒサシを許したこと、責めなかったことはいいことだ！

ぼくがはじめヒサシを責めてしまったことはいけないことだ！

ぼくがはじめヒサシを責めてしまうのは分かる。これではよかった？

失敗はだれにでもある！はじめから許せばよかったのでは？

【問い】
友達が失敗したらどうすればいいのだろうか。

【問い】
友達が失敗したらどうすればいいのだろうか。

私は友達が失敗をしても反省していたら許そうと思います。誰にだって失敗はあるし、自分だって失敗することがあるからです。また、もし許さなかったことでその友達と気まずくなってしまい人間関係がこわれるのもいやだからです。気持ちを互いに考えたいです。

私はミスした相手が反省していたら許すべきだと考える。私は失敗してしまう側のことが多いが、失敗したときに友達がはげましてくれと元気も出て前向きになれる。誰かが失敗しても必ず相手の気持ちを考えることを大切にしていきたい。

教師の評価観点○	△
相互理解・寛容 (21/25)	・信頼、友情 ・公正公平社会正義 ・節度節制 ・善悪の判断

教材の感想から問いを作ると、問いが広がりすぎるので道徳みつけをしながら（視点を与えながら）読むことで共通の問いを作る手掛かりにする。

広山・横山による「道徳読み」の援用

- ①普通に読む
- ②道徳さがし・道徳みつけ

道徳があつたら線を引く→どんな道徳が言葉を書き込む

- ③発表をし他人の見つけた道徳を学ぶ
- ④登場人物を俯瞰し道徳的に判断する
- ⑤自分のところに落とす

広山・横山（2018）「道徳読み」

「②道徳さがし・道徳みつけ」の手法を援用すれば、授業の内容項目を教師が先に示すか否かにかかわらず、子どもの視点から共通の「問い」を立てられ、さらに主体的な学習へつながっていくのではないか。

○教材から問いを作る授業例(2)

6年生「わたしのせいじゃない」～いじめの責任～

今日は、いじめのお話です。よくないと思った箇所に「○」をつけましょう。→ICT投票機能で集計

結果を見て考えたことや、話し合っていたいことは何ですか。

人数が少ない部分の意見を聞いてみたい。

人数が少ないのと多いのに分かれた。

知らない、見ていないは仕方ないのではないか。

責任がない人なんていないんじゃないかな。

【問い】
いじめの責任はどこにあるのだろうか。

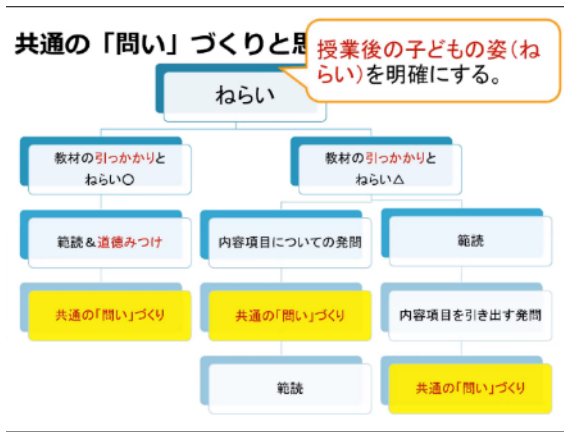
【問い】
友達が失敗したらどうすればいいのだろうか。

私は友達が失敗をしても反省していたら許そうと思います。誰にだって失敗はあるし、自分だって失敗することがあるからです。また、もし許さなかったことでその友達と気まずくなってしまい人間関係がこわれるのもいやだからです。気持ちを互いに考えたいです。

私はミスした相手が反省していたら許すべきだと考える。私は失敗してしまう側のことが多いが、失敗したときに友達がはげましてくれと元気も出て前向きになれる。誰かが失敗しても必ず相手の気持ちを考えることを大切にしていきたい。

教師の評価観点○	△
相互理解・寛容 (21/25)	・信頼、友情 ・公正公平社会正義 ・節度節制 ・善悪の判断


○共通の問いを作るためのポイント



自身の「問い」⇔クラス共通の「問い」

- ①道徳的価値を理解する (価値理解・人間理解・他者理解)
- ②価値理解を基に自己を見つめている
- ③物事を多面的・多角的に考えている
- ④自己の生き方について考えている

・振り返りでは、「問い」に正対した内容を、自身の経験や考えとともに(納得解)記述するよう助言する。
 ・①～③での学習状況も積極的に見取る。




- ・共通の問いを立てるキーワードは「教材の引っ掛かり」である。
- ・引っ掛かりと教師のねらいが、マッチした時に子どもたちが自ら内容項目を深めていけるものになる。
- ・「教師のねらい」と「子どものひっかけ」がずれているときは範読や内容項目を引き出す発問をしてから共通の問い作りをしていくとよい。
- ・子どもの思考の流れが自然であることが大切である。

○評価で意識したいこと

自身の「問い」⇔クラス共通の「問い」

- ①道徳的価値を理解する (価値理解・人間理解・他者理解)
- ②価値理解を基に自己を見つめている
- ③物事を多面的・多角的に考えている
- ④自己の生き方について考えている

・振り返りでは、「問い」に正対した内容を、自身の経験や考えとともに(納得解)記述するよう助言する。
 ・①～③での学習状況も積極的に見取る。



指導と評価の一体化

学習活動	評価観点(教師の授業)	評価視点(子どもの学び)
① 道徳的価値を理解する (価値理解、人間理解、他者理解)	・内容項目について自分自身の経験やそれに伴う感じ方、考えをもとにして自分事として捉えられる指導をしたか。	・内容項目について、自分なりに捉え、「問い」や考えをもったか。
② 自己を見つめる	・経験だけでなく、それに伴う感じ方、考え方について考えらえるよう指導したか。	・「問い」に対する考えを、自分との関わりで深めたか。
③ 物事を多面的・多角的に考える	・一面的な見方から多面的な見方ができるよう指導したか。	・「問い」について、話し合いを通して様々な見方をするなどして考えを広げたか。
④ 自己の生き方についての考えを深める	・道徳的価値に関わる思いや課題が漠然としていた子が、現在の自分自身の自覚に基づいて考えを深められるよう指導したか。	・学習を通して、「問い」についての考えが変容したり、自身の向き合い方を改めたりしたか。

指導と評価の一体化

行動、表情、発言、ワークシート等から多面的によさを見取り、

- ・通知表や指導要録
- ・学級だより
- ・日々の声かけ
- ・自己評価

等を活用して、

励まし、勇気づける。

- ・子どもにとっては自らの成長につながるもの
- ・教師にとっては指導方法の改善に生かすためのもの。
- ・クラスの問いについて考えるだけでなく、自身の生き方についても答えを考えていくことが大切である。
- ・子どもたちの活動を真ん中の表の観点で評価していく。そして子どもたちの気づきを教師が価値づけていく。

○成果と課題

【成果】

- ・共通の「問い」により、子どもたちの**本時の見通し**が明確になった。いわゆる、ねらいから逸れない授業。
- ・教材の引っかかりを手がかりに「**道徳みつけ**」を行うことで、**単位時間内でスムーズにモデレーションして「問い」を立てる**など学習の方向付けができた。

【課題】

- ・共通の「問い」の設定により自己を見つめることに対する記述がうすくなる部分が見られた。「**問い**」の**文言の精選と振り返り（問いへの正対）**の充実。
- ・単位時間あたりの「**クラス共通の問い**」と「**個の問い**」の**関連**をどのように評価に生かすか。

【参考文献】

- ・田沼茂紀(2020)「問いで紡ぐ小学校道徳科授業づくり」(東洋館出版社)
- ・赤堀博行(2018)「道徳の評価で大切なこと」(東洋館出版社)
- ・広山隆行(2018)「道徳読み 教科書を使う道徳の新しい授業法」(さくら社)
- ・永田繁雄「考え、議論する道徳をつくる『学習テーマ』の研究」
道徳教育2021年1月号(明治図書)
- ・学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」
- ・永田繁雄(2017)「『特別の教科 道徳』を進める 主体的・対話的で、深い学び」講演資料

質疑応答

Q1

低学年で問いを作ると、ねらいとずれてくることがある。低学年で問を作るコツは？

A1

- ・低学年の場合記号であらわす。選択式にするなど、わかりやすくすることで問を作りやすくなるのでは。

Q2

- ・問いにもレベルがあると感じた。よい問いを作るための手立ては何か？

A1

- ・よい問いとは何かを考えた時、本時で子どもたちに気づいてもらいたいもの、考えてほしいものではないか。また教材の特質によっても、問いの導き方も変わってくると感じる。
- ・子どもたちが考える部分と、教師が提示する部分をしっかりと意識して考えていくことが大切ではないか。

Q3

- ・道徳読み（よいところに○をしようなど）をしながら、教材を読んでいくと、人間理解の「そうはいってもなかなかできない…」という本音が出にくいのではないか？

A3

- ・6年生「ぼくだって」の授業では登場人物の行動を許せるか？許せないか？を子どもたちに投げかけた。共感できるかできないかを聞くことが、人間理解を引き出すための一つのポイントになるのではないか。

Q4

- ① 21 / 25 のように児童の人数で授業の評価をしていたが、深く考えた故に別の内容項目が、ふり返りに表れることもあるので、一概に数字で評価すればよいわけではないと感じる。
- ② 教師ではなく子どもが問いをつくることで年間通じて学ばせる内容項目にむらができてしまわないか？

A4

- ① 内容項目について「何を」考えたかを様々な面から評価していくことが大切である。
- ② 今まで授業をしていて、高学年で問いと内容項目大きすぎたことはない。今のところつなげていくことができている。しかし、質問のおかげで今回の提案の中にある課題に気づかせていただくことができた。

Q5

伝統ある学校、オリパラ選手による講演など、学校独自の取り組みによって、道徳や他の授業で、子どもたちの意見で何か特徴的なものはあったか。

A5

事前に行った地域の方の講話や、オリパラ選手の講演などから学んだことが道徳の授業の中の意見として出ていた。そこは地域の特色が有効に働いたと考える。

Q6

道徳で「問い作り」に時間をかけることは、あまりふさわしくないのではないか。話し合いや対話の間をメインにすべき。モラルジレンマ教材などで導入をスリムにして、そこから子どもたち同士の対話をしてみてはどうか？

A6

いじめなどいろいろな価値がふくまれている教材は2時間扱いで問をつくることもある。単位時間では作る場合は、スムーズに進められるように、先述の「道徳読み」などをいれて話し合いの時間を確保していきたいと思う。確かにモラルジレンマはダイレクトに問いにつながる。

参会者

(感想)

- ・ 導入のスリム化、問いをつくることに子どもが慣れていないとしたら、国語や算数でも問いを立てる

実践はある。道徳以外の他教科の広がりも大切だと感じた。

- ・ いろいろな教科で問題解決の授業デザインの可能性がある。

田沼支部長

- ・ 問いの考え方について 「個々の問い」と「共通の問い」は違うものである。
- ・ 内容項目とは互いに語り合うための課題
- ・ 個々の課題を共通の課題にする過程で、価値についてフォーカスされていく。
- ・ 価値についてフォーカスするということは、すなわち道徳的学びをすること。
- ・ このように個々の異なる課題をすり合わせる中で、すでに道徳の学びが始まっている
- ・ また子どもの言っていることは、その時いったことがすべて子どもの本音だといえる。それが人間を理解するという事ではないか。

〇二つの提案より 本日のまとめ

(参会者感想)

- ・ 統合教育というものがある。①子どもたち問を作る ②価値を理解させる
2 2 項目すべて課題づくりから始めるような①のパターンではうまくいかない、1 年間内容項目に軽重を付けながら①②をバランスよく指導していく必要がある
- ・ 2 2 項目は並列しているものではない。例えば生命尊重の中にいろいろな内容項目が含まれているのではないか。それがわかると、指導の軽重がわかってくる、それを実践の中で見つけていけるとよい。

(参会者感想)

- ・ 勤務校では振り返りを言語分析している。
- ・ ABCD という評価をするだけではなく、その子どもたちにどんなフィードバックをするかが大切である。それを教員全員で話し合っている。
- ・ ポートフォリオ評価なども入れて、子どもたちを一時間だけで見るのではなく、小単元で様々な面をみるようにする。
- ・ 子どもたちが発表する時は、発言している子の隣まで教師が移動し、みんなの方を見て話を聴くとどんな表情で、聴いているかを把握することもできる。そこでの反応をみながら、次の発表者を決めるという方法もある。

コロナ禍の状況でも学びを止めずに研究することができました。神奈川支部を関わってくださった先生方に感謝申し上げます。次回4月24日(土)に道徳フォーラムが行なわれます。来年度もともに勉強できることを楽しみにしております。